森と海の自然科活動報告書　　テーマ「里川」B グループ

木津川沿い山背古道（奈良街道）散策　その１（木津～上狛）

日時：2021 年 11 月 25 日　晴れ

集合：JR　木津駅　10 時 30 分

参加者：２１名

木津川は三重県西部、滋賀県南部、奈良県北部の山地を源流にもつ河川で、山地の中を西に流れたのち加茂の盆地を抜けて木津に至る。そして木津から平地に出て北へ流れを変え、八幡で宇治川、桂川と合流して淀川となる。木津川は流量変化の大きな河川であり、普段は清流が流れているが、ひとたび大雨が降ると大増水し、山域地域の平野だけでなく、はるか大阪平野にしばしば水害をもたらした。木津町は町の北西に木津川を背負い洪水に苦しめられてきた歴史の町である。

行程最初は木津惣墓五輪塔。

泉大橋

この五輪塔は木津川の氾濫で亡くなった人々の供養のために鎌倉時代５年（1292）に建立されたものと思われる。建立時代のわかる五輪塔として国指定重要文化財となっています。その後正覚寺、和泉式部の墓？と伝えられている墓所を見学。科員から、多くの人に愛された式部に羨望の声が上がって一同爆笑。泉大橋で木津川を渡り暖かい日差しのもと右岸河川敷で昼食。

12 時過ぎに泉橋寺（行基が五畿内に造営した四十九院の一つといわれ、完成時には聖武天皇も訪れ、蜻蛉日記の作者藤原道綱母も宿泊しているそうです。）到着。この寺に地蔵菩薩の石像があり、高さ 4.58mあり、日本一の石地蔵として有名。

その後茶問屋ストリート（江戸時代末には木津川、淀川を経て神戸港から輸出、上狛茶問屋街は東神戸、今神戸とよばれ繁栄していた）を通り、山城地方でもっとも大きい環濠集落-上狛環濠集落を見学。一度 JR 上狛駅に戻り、狛弁財天社-玉台寺で生駒連峰を眺め、予定になかった松尾神社を見学。神社は国の重要文化財に指定されていて、創建は大宝元年（701）といわれる古社で、月読命を祀った本殿は文化 5 年（1808）に奈良春日社若宮本殿を移築したもの。表門両脇の土塀は鎌倉時代の瓦を練りこんで作られている。残念なことに手入れが行き届かず、しめ飾りも何年も取り替えられていない有様であった。上狛駅にて 3 時過ぎ解散。

昔から大きな河川の近くに文化が栄え、同時に川の氾濫との闘いが重要な課題であったことは活動中に常に気づかされるが、古人が築き上げた文化遺産をどのように守っていけばいいのか考えさせられた。